

ハスモンヨトウの生態等

○発生の経過

- ・卵⇒幼虫(5～6齢)⇒蛹⇒成虫
- ・各生育ステージの期間
 - 卵期間: 夏2～3日、秋4～6日
 - 幼虫: 1齢2～3日、2齢1～2日、全幼虫期間13～18日
 - 蛹期間約10日
- ・成虫の寿命
 - 夏5～6日、秋12～15日

○被害を受ける作物

- ・幼虫は広食性であり、多くの野菜、花きを加害する。
- ・広島県では、だいず、キャベツ、トマト、アスパラガス、ねぎ、いちご、なす、ピーマン等で被害が見られる。

○トラップの活用

- ・飛来性の害虫のため、トラップによる発生状況確認が防除を行う際の参考となる。
- ・誘殺数が平年(平均・前年)値より多く推移している場合は被害が多くなると思われるので注意する。
- ・中老齢幼虫には農薬が効きにくいいため、若齢幼虫(1齢、2齢)期に防除する。
- ・トラップ誘殺ピークから約1週間後にほ場をよく見回り、若齢幼虫の発生を確認してから防除する。

○写真



写真1 卵のう (黄土色の毛に覆われている)



写真2 若齢幼虫(上)及び老齢幼虫(下)



写真3 フェロモントラップに誘殺された成虫



写真4 ハスモンヨトウ幼虫による食害(だいず)